思い込みからの解放

先日休暇をいただき、香川県の「アートの島」と言われている“直島”に行ってきました。
特別アートに詳しいわけではなく、島を自転車で周ることの方が楽しみに感じていた私でしたが…
“地中美術館”で出会った作品に、とても心を動かされたものがありました。

ジェームス・タレルの「オープン・フィールド」という作品です。
（(以下、ネタバレになってしまったら申し訳ありませんが、簡単に説明します。)）

部屋に入り、数段の階段の先には、うっすらと青いスクリーンがありました。
係の方に「前にすすんでください」と言われ、スクリーンの前まで階段を上がると、また「すすめるところまで、すすんでください」と。スクリーンギリギリまですすんでいるのに、言われるのです。
「本当にそこが行き止まりですか？」と尋ねられ、私を含めた全員が頭に？を浮かべていました。

「これはスクリーンではありません」と言われてもまだ半信半疑で、そっと手を伸ばして、足を入れてみると…スクリーンだと思っていた奥行きを感じない“四角”は、なんと別の空間への入り口でした。
その空間の中はなんとも不思議で、奥行きも上下も不確かな、言葉では表せない幻想的な空間でした。
（(ぜひ、直島で体験して感じてほしいです…！！)）

みなさんも経験からの予測や知識から「～だろう」「きっと〇〇にちがいない」と思い込んでしまうことがありませんか？そして、それが思わぬ形で「思い込みをしていた」と気付くことはないですか？
まさに、目の前の四角がスクリーンだというのは、私の“思い込み”でした。
その思い込みはなぜか疑いもしない、揺るぎないものとなっていました。

そう考えると、日常の中でも「無意識のうちに思い込んでいることがあるなあ」と感じています。
子どもたちと植物を育てるとき「季節ではないからきっと育たないだろう」
子どもが疑問を抱いているとき「答えは〇〇だろう」

本当にその一択でしょうか？そのルートしかないのでしょうか？
もし「そうかもしれないけれど、そうではないかもしれない」と思えたら…行動が変わり、思考が変わり、新しい発見があるかもしれない。そして可能性はどんどん広がっていきます。
私たち法人の理念は「無限の可能性を信じ共に育ちあう個と公の集団」です。

「もしこの種から芽が出たら…」「答えが〇〇ではなかったら…」そう考えるとワクワクしてきますね。
そして、そんな小さなワクワクこそが子ども達の興味を広げ、好奇心を育て、発想を豊かにしていき、様々な可能性が広がっていくと思います。
今回の旅で、思い込みは少しずつ減らし、小さなワクワクを楽しめる心を大切にしていきたい、と気付かされました。

（清水）